

◆ 巻頭言

日本社会の「ガラスの床」

水無田 気流

この国は、女性に対して「理念上は平等、実質的には不平等」である。女性の平均賃金は男性の7割程度で、給与所得がある女性も7割近くが年収300万円以下、しかも雇用者の過半数が非正規雇用であるから実質的報酬水準はさらに低く、女性の雇用環境は今なお厳しい。

さらにこの国では、女性が就労と育児を両立することも極めて困難である。出産を機に離職する女性が多数派であり、未就学児を抱えた母親の就労率も先進国では極めて低い。長期間継続就労を前提にした昇給制度も、出産などでキャリアを「中断」する女性には不利に働く。

「実質的不平等」の背景には、男性の長期間雇用を前提とした「家族賃金モデル」がある。男性片働きで家族全員を養う前提の下、女性は周辺労働力とみなされてきた。組織内の昇進の壁を「ガラスの天井」と呼ぶが、多くの女性が強いられるのは、むしろ「ガラスの床」である。パートや派遣など、周辺労働者としての位置づけは長年不問に付されてきた。近年「派遣村」など若年男性の非正規雇用問題が浮上したが、今なお女性労働問題は男性ほど深刻には問われていない。

こうした「実質的不平等」は、最近では若年女性の専業主婦志向を高めてさえいる。だが、「家族賃金モデル」は家計破綻リスクが高い。今後は若年層を中心に、総合的な賃金低下傾向は否めないからだ。さらに雇用や育児環境が改善されないまま、必要に迫られて働かざるを得ない女性が増えれば、「低賃金労働」と「家事育児全般」の重荷は女性にばかりのしかかる。若年女性には酷なようだが、あえて警告したい。もはやかつてのような専業主婦生活を保証してくれる若年男性は、希少種である。今後女性は、否が応でも家計負担を分担する気概をもって家庭にも社会にも対峙せねばならない。なし崩しではなく、自らの幸福のために選択したい。



PROFILE

水無田 気流
(みなした きりゅう)

詩人・社会学者。東京工業大学世界文明センター・フェロー（非常勤講師兼研究員）。第1詩集『音速平和』（2005年、思潮社）で第11回中原中也賞受賞。第2詩集『Z境』（2008年、思潮社）で第49回晩翠賞受賞。評論に『黒山もこここ、抜けたら荒野 デフレ世代の憂鬱と希望』（2008年、光文社新書）、『無頼化する女たち』（2009年、洋泉社新書y）。